福山市立大学 清原 昭子

1) <u>持続可能性</u>は agency*とともに、FAO の食料安全保障 (フードセキュリティ) 概念**に追加して組み込まれるよう、HLPE から提言され(2020 年)、<u>FAO およびその</u>他の国連機関によって認められている(FAO et.al., 2021)。

(2022年12月開催の第22回国際栄養学会議(IUNS-ICN)における、持続可能な 食生活のタスクフォースによるシンポジウム: Sustainable diets: Linking nutrition and food systems より)

*人が重要と考える目標や価値を追求するために自由に行動し、達成できること(A. セン) 食料政策においては、「食料主権」や「食料への権利」とも関連する指標として扱われる。

**FAO のフードセキュリティ概念を構成する(従来の)4つの次元

入手可能性、アクセス、利用、安定性 →第3回部会でも紹介され、議論した (FAO, 2006; Webb et al., 2006; CFS, 2009; Upton et al., 2016)より

2) 「持続可能性」は食料政策の枠組みで取り組むべき課題である。

農林水産省による論点 2『食品産業や流通・消費も含め、フードチェーン全体で、 食品ロス削減や持続可能性に配慮した輸入原材料調達、小売・流通や消費者の行動 変容など、持続可能性に向けた取組が必要ではないか。』に関連して。

FAO およびその関連機関では、食品の加工、流通、消費のあり方が生態系に与える影響を考慮に入れた(つまりフードチェーン全体を視野に入れた)議論がなされている(Clapp et.al., 2022, p. 5)ことに留意すべき。

現状の政策では、環境負荷の削減対策が農業生産段階に偏る状態にあり、食に関<u>わるトータルな範囲での持続可能性の維持は不可能である。</u>食品製造業、流通業(卸売・輸送含む)、小売業の<u>活動自体での対策が必要</u>である。現状は、これらの産業に関しては、食品廃棄削減以外には「グリーンな農産物」を調達・加工し、流通させることへの政策しかとられていない状況ではないか。

3) 「環境に配慮した農産物」の消費者への認知について(資料 p. 29, 34)

農林水産省による論点 3 『持続可能な農業を一部の人の取組ではなく普遍的なものとするため、地域全体で取組を進める仕組みや、それを実現するための「政策手法のグリーン化」を推進する必要があるのではないか。』に関連して。

消費者理解の醸成などによって、特定の生産物や生産者を差別化する戦略のみでは、環境に配慮した農産物を普及させることは限界がある。環境への配慮が農業や社会的に真に必要な特性であれば、幅広い生産者が一般的に環境に配慮した農産物の生産に取り組める支援・施策を検討すべき。

<資料>

FAO, IFAD, UNICEF, WFP, WHO, 2021. The State of Food Security and Nutrition in the World. FAO, Rome. (http://www.fao.org/publications/sofi/2021/en/) Jennifer Clapp, William G. Moseley, Barbara Burlingame, Paola Termine, The case for a six-dimensional food security framework, Food Policy, 106 (2022) 102164

上記 Clapp et.al., 2022 のベースとなる食料安全保障と栄養に関する専門家ハイレベルパネル (HLPE in CFS) による報告書,

HLPE, 2017. Nutrition and Food Systems.

(http://www.fao.org/3/a-i7846e.pdf.)

HLPE, 2019. Agroecological and Other Innovative Approaches for Sustainable Agriculture and Food Systems that Enhance Food Security and Nutrition. (http://www.fao.org/3/ca5602en/ca5602en.pdf.)

HLPE, 2020. Food Security and Nutrition: Building a Global Narrative Towards 2030. (http://www.fao.org/3/ca9731en/ca9731en.pdf.)

以上